

# 第二一八回 幻住庵俳句コンクール

審査結果 令和六年二月 幻住庵保勝会

選者 滋賀 恵美子(俳人協会)

特選 音たてて表紙切りとる初暦

大津市柳川一

圓井 公子

【評】新年に期待と願いを込めた行動が「音立てて表紙切りとる」に

弾む気持ちなが表現されています。誰でもが経験した、よく解かる秀句です。いくつになっても新年を好奇心をもち迎えたいものです。

入選 山頂の錦秋の空下ローン飛ぶ

三田市あかしあ台五

細田 秀子

入選 お年玉孫は次々親になり

大津市光が丘一

大槻 幸恵

入選 吾にまだ残るときめき落葉ふむ

大津市里六

宮崎 正子

佳作 父の忌の一日ゆるやか冬日影

大津市別保一

田中 文子

佳作 除夜の灯や術後の輸血切れ目なく

大津市石山寺三

小野 寛

佳作 冬晴れや心の底にひそむ修羅

大津市柳川一

丸岡 正男

佳作 悴む手つなげば心あたたまる

摂津市南千里丘五

河野 善江

佳作 靴と靴混み合っているお元旦

高槻市高垣町

四方 よね子

選者 小林 紀夫(大津市俳句連盟)

特選 凍星よ国境線のなき空よ

大津市別保二

田中 文子

【評】凍てつく冬空に、無数の星が輝いているが、この広い宇宙に

国境線などない。しかるにこの小さい地球では国境線を巡り争いが絶えない。凍星よ、空よ、とリフレインする。とどで争いのない世界を望む思いが伝わってくる。

入選 産土で祝う雑煮や帰郷の子

大津市石山寺三

小野 寛

入選 青年の不機嫌は背に冬の月

大津市柳川一

丸岡 正男

入選 充電をした子見送り七日粥

高槻市高垣町

四方 よね子

佳作 街灯は大正の色冬の夜

栗東市中沢二

葛城 巖

佳作 開かぬ側の車窓は波の枯蘆原

大津市別保二

田中 文子

佳作 茶の花や遠出叶はぬ母の靴

大津市別保二

田中 文子

佳作 路地尾花鏡に揺らぐ美容室

大津市光が丘一

大槻 幸恵

佳作 ひだまりや鳥語こぼれて冬隣

大津市里六

宮崎 正子

選者 山田 鳴子(日本伝統俳句協会)

特選 山寺へ上る灯の列去年今年

大津市稲津三

加集 正尊

【評】年籠をする為、或いは初詣をする為に山寺へ向かう人々。昔

は提灯、今は懐中電灯の照らすのみの山道を行く人の足を元を見つめながら登る。麓の町からは稜線も判らぬ闇の中を一筋の光が延びるのが見えるのみ。 厳肅

入選 内緒とすぐにはしける鳳仙花

大津市柳川一

丸岡 佐代子

入選 団栗を拾ふ子蹴る子通学路

大津市柳川一

圓井 公子

入選 拍子木の音透きとほり冬に入る

大津市柳川一

圓井 公子

佳作 凍星よ国境線のなき空よ

大津市別保二

田中 文子

佳作 やまあるきあかいかいもみじがうれしな

三田市すずかけ台三

荒木 節夫

佳作 一茶忌や昭和歳時記繕ひぬ

大津市里六

宮崎 正子

佳作 吾にまだ残るときめき落葉ふむ

大津市里六

宮崎 正子

佳作 寒に入る日ざしに風の矢りけり

大津市栄二

森本 和子

撰者 志村 宣子(現代俳句協会)

特選 お年玉孫は次々親になり

大津市光が丘一

大槻 幸恵

【評】孫にお年玉をあげるのも楽しいお正月の行事。可愛いポチ袋

を選び添える言葉を考えるのも至福の時間。その幸せは逆に孫からお年玉をもらっている様な気分。その孫も親となり同じ幸せを味わっていると感慨深い作者。

入選 団十郎悪を睨みて年暮るる

摂津市南千里丘五

河野 善江

入選 消灯に埋火ほのと灯りけり

草津市若草三

井上 次雄

入選 一茶忌や昭和歳時記繕ひぬ

大津市里六

宮崎 正子

佳作 音たてて表紙切りとる初暦

大津市柳川一

圓井 公子

佳作 除夜の鐘術後の部屋の森閑と

大津市石山寺三

小野 寛

佳作 変えられぬ顔に合わせる冬帽子

大津市柳川一

丸岡 佐代子

佳作 北風のどこか風にも訛かな

大津市里六

宮崎 正子

佳作 寒の雨湖の景色を遠ざけて

大津市栄二

森本 和子

撰者 馬場 民代(幻住庵保勝会)

特撰 独り言流れ秋雲聴いている

大津市柳川一 丸岡 佐代子

【評】秋天は目まぐるしく変化し雲もまた。そんな秋雲が一人の独り言を聴くなどという詩的発想が白眉。流れ雲が人間のやさぐれ流浪や彷徨などを匂わせるも、何人も他者がなにびと気懸かりなもの。人の複雑重層な心象風景である。

入選 綿虫の音という音なかりけり

栗東市中澤二 葛城 巖

入選 言の葉をしかと抱きしめ花八ツ手

大津市里六 宮崎 正子

入選 手毬唄「あんたがたどこさ」肥後遠し

大津市大萱 松田 和子

佳作 生選の父の餅搗く姿かな

大津市石山寺三 小野 寛

佳作 「漕ぎ始め」のゴックスの声凍てる湖

大津市月輪 加集 正尊

佳作 山寺へ上る灯の列去年今年

大津市稲津三 加集 正尊

佳作 冬の梅小説並ぶ祖父の部屋

栗東市中沢二 葛城 巖

佳作 ふと見たり冬將軍の太き眉

大津市別保二 田中 文字

選外佳作(山田鳴子) 屠蘇酌むや家に伝はる輪島塗

高槻市高垣町 四方 よね子

選外佳作(山田鳴子) いくたびも噴煙吐いて山眠る

草津市若草三 井上 次雄

選外佳作(志村宣子) 父の忌の一日ゆるやか冬日影

大津市別保二 田中 文字

選外佳作(志村宣子) 青年の不機嫌は背に冬の月

大津市柳川一 丸岡 正男

選外佳作(志村宣子) 犬と吾と落葉しぐれとシャンソンと

大津市大萱 松田 和子

選外佳作(志村宣子) 鳥渡る琵琶湖の小さき船着き場

無記名

選外佳作(小林紀夫) 内緒ごとすぐにはじける鳳仙花

大津市柳川一 丸岡 佐代子

選外佳作(小林紀夫) 音たてて表紙切りとる初暦

大津市柳川一 圓井 公子

選外佳作(小林紀夫) 消灯に埋火ほのと灯りけり

草津市若草三 井上 次雄

